

便中ヘモグロビン定性：

消化管の潰瘍、腫瘍、炎症、感染症などの病変からの便中潜血の検査はこれら疾患の診断、治療上にきわめて重要です。現在便潜血の主流はヒトヘモグロビンに対して特異性の高い免疫反応を使用した検査ですが、上部消化管（口腔、食道、胃など）出血では胃液や十二指腸液によってヘモグロビンが壊される為検出率が低く、下部消化管疾患（主に大腸癌）の検出に用いられます。

便脂肪染色：

正常便中の脂肪は1日2～6gで、乾燥糞便量の10～25%を占めます。閉塞性黄疸等で胆汁欠乏のために脂肪の吸収障害がある時は多量の脂肪酸を、また膵疾患等で膵液分泌不全のために消化障害がある時は多量の中性脂肪を認めます。便中脂肪はズダン、ナイルブルー等の染色で証明できます。